

凍霜被害が発生した果樹と野菜の当面の管理

福島県農林水産部農業振興課

令和3年4月10日及び11日の低温により、果樹とアスパラガスで凍霜被害が発生しました。被害発生時の果樹の生育ステージは、なしは開花期、ももは開花期から落花期、りんごは花蕾着色期から開花直前、おうとうは開花直前から開花始期、かきは発芽期から発芽直後でした。

今後、生育が進み被害様相が明らかになってくるので、状況をよく確認して、適切な事後対策を行いましょう。

1 果樹

開花の進捗は、同一品目でも園地の条件や品種により異なります。めしべの褐変など被害が大きい品種でも被害の状況を十分確認し、被害程度が軽い開花の遅い花に対して重点的に人工受粉を徹底してください。また、今後開花期を迎える品目では、めしべの状態を確認しながら人工受粉を徹底しましょう。

なお、被害にあった花器の花粉は受精能力が低下していることがあるため、発芽率を確認し、使用してください。また、人工受粉を複数回行うことにより花粉が不足する場合には、早めの確保に努めましょう。

摘果は、各品目とも結実や生理落果が明らかになるまで遅らせ、結実確保に努めましょう。

着果量が少ない場合は、追肥は徒長枝の発生を招くため、控えましょう。ただし、凍害により新梢の萎縮などの被害がみられる場合には、根の活力を促すため、土壌改良資材等を投入しましょう。なお、病害虫防除は通常どおり実施してください。

(1) なし

開花時期の早い「新高」「豊水」「南水」「二十世紀」等で被害が大きい状況です。被害が大きい品種でも開花の遅い花に対して重点的に人工受粉を徹底してください。

予備摘果は、結実状況が明らかになるまで遅らせ、果形や果面障害の状況を確認して被害程度の軽い果実は残し、着果量の確保に努めましょう。

(2) もも

被害発生時の生育ステージは、開花終期から落花期でした。被害が大きい園地では、目通りの高さより高い位置でも雌ずいの褐変が確認されています。

花を採取し、断面を確認することにより被害を助長する可能性がありますので、注意しましょう。

予備摘果は、結実や生理落果の状況を確認し、被害の状態が明らかになるまで遅らせ、着果量の確保に努めましょう。また、凍霜被害の影響が胚（種子）及びその周辺部に見られることがあるため、摘果前に果実を切断し、障害の程度を確認してから摘果しましょう。

(3) りんご

「ふじ」などで中心花の被害が見られる状況です。中心花が被害を受けている場合は、側花で対応し人工受粉を徹底してください。

(4) おうとう

開花期の早い品種での被害が見られる状況です。被害状況を確認し、被害程度が比較的軽いと考えられる樹冠上部、開花の遅い花を重点的に人工受粉を徹底してください。

(5) かき

発芽期から発芽直後に被害を受けたため、芽枯れが発生しています。花蕾の着生状況及び結実状況が判断できるまで摘蕾、摘果は控えましょう。

残った芽や副芽から発芽が進み、新梢数はある程度確保される場合がありますので、経過を観察しましょう。

2 野菜（アスパラガス）

アスパラガスは、凍害を受けた若茎を除去し、次の萌芽を促しましょう。

立茎中の親株が被害にあった場合は、新たに親株を立茎しましょう。

3 防霜対策の徹底

果樹は、今後も、開花期から幼果期まで低温に弱い状態が続きますので、気象情報に留意し防霜対策を引き続き徹底しましょう。

アスパラガスは、降霜が予想される場合、施設栽培では、夕方早めにハウスを閉めて保温に努めましょう。露地栽培では、事前に収穫を行いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>